

ストライダー
はじめてBOOK



1歳半から乗れる
ストライダー

乗り方 & メンテナンス

ストライダーにはじめて乗るお子さまと、その保護者の方に
知っていただきたい情報が、たくさんつまった大切な本です。

\\ ストライダーに乗る前に //

STEP1 安全に遊ぶための服装 & 防具

ストライダーで遊ぶ際は、必ずヘルメットを着用してください。

また、プロテクターも一緒に装着するとさらに安全性が高まります。

お子さまをケガから守るため、保護者の方が安全に対する理解を深めましょう。

正しいスタイル

ヘルメット

転倒の際、お子さまの頭を衝撃から守ります。頭にピッタリ合ったサイズを選びましょう。

肘膝あて

乗り始めの時期は、肘膝あてを付けて遊びましょう。



※純正品
・ライダーズプロテクター

グローブ

転倒の際、お子さまの手を守ります。手にピッタリ合ったサイズを選びましょう。



※純正品
・ライダーズグローブ (左)
・ライダーズフィンガーレス (右)

スニーカー

動きやすく、サイズの合ったスニーカーを選びましょう。靴紐がないタイプだとより安全です。

memo

外で遊ぶ際はこまめに水分を摂りましょう。たくさん汗をかいた後は、ヘルメットやグローブ、肘膝あてを天日干して乾燥させ清潔に保ちましょう。

\\ストライダーを組み立てよう\\

STEP2 ハンドルとシートを調整しよう

ストライダーは組み立てが必要です。

製品に同梱されているマニュアルに沿って組立てを行ってください。

その後、体形にあった位置にハンドルとシートを固定しましょう。

高さの調整方法

※ハンドルクランプ(固定するパーツ)の操作方法は、各モデルによって異なります。



— | ご注意 | —

クランプが完全に緩んでいない状態でハンドルやシートを上下に強く動かすと、傷が付く恐れがありますのでご注意ください。

<For Sport Model>

クイック
リリースクランプ



工具は必要ありません。位置を動かすときは「クイックリリースクランプ」のレバーを開き、固定するときはレバーを締めることで、高さを調整できます。また、レバーを締めた状態でもハンドルが固定されない場合は付属の六角レンチで締め込んでください。

<For Classic Model>

固定式クランプ



付属の六角レンチを使用します。位置を動かすときは「固定式クランプ」を六角レンチで緩め、高さが決まったらクランプを六角レンチで締めます。この時、ハンドルが左右に動かなくなるまでしっかりと締め込んでください。

初心者のオススメポジション

ハンドルは「指2本」！

ハンドルクランプ(★マークの部分)から大人の指2~3本くらいの高さがベストポジション！胸の位置より高すぎるとハンドルグリップを握った際、力が入りづらくなります。



シートは「やや低め」がgood！

座った際、足の裏がしっかりと地面につき、膝が軽く曲がる程度の「やや低め」がオススメ。

memo

安全で快適に乗り続けられるよう、成長に合わせて高さを調整することが大切です。



\\ スライダーに乗ってみよう //

STEP3 スライダーと遊びに行こう

さあ、準備ができたなら、さっそく遊びに行ってみましょう。

スライダーで遊ぶのに適した場所、遊べない場所を理解して、安全な場所を選ぶことが大切です。

そして必ず保護者が目を離さないようにしましょう。



はじめてのお子さまは、起伏が少ない平らな場所で乗りましょう。周囲に障害物がなく、四方が広く見渡せる、視界が開けた場所が適しています。転倒しても大きなケガに繋がりにくい、芝生の上もオススメです。

⚠ 走行禁止場所

- 公道 ●交通の往来が激しいところ
- 転倒時に大きなケガにつながるころ
- 保護者の判断で走行が危険だと感じるころ



memo

保護者の方は、無理強いや過度なアドバイスはせず、お子さまが楽しんで遊べるよう見守ってあげることが上達のコツです。

STEP4 ステップアップを目指そう

子どもは本能的に「足で地面を蹴って進む」ことを知っています。
歩くように進むうちに、徐々にバランス感覚を掴み、上手に乗れるようになります。

1. 立ち歩きでゆっくり進む

ストライダーに乗りはじめのほとんどのお子さまは、シートに座らずに立ち歩きからスタートします。その中でハンドル操作や転ぶ事を繰り返し、自分でコントロールするものだと気づきます。



CLEAR!

月 日

2. シートに座れたらヨチヨチウォーキング

操作の感覚をつかみだしたらシートに座って歩き始めます。最初はゆっくりヨチヨチと。自分の足で前に進むことを覚えます。



CLEAR!

月 日

3. 歩幅もコントロール自在。ストライド走法

乗り慣れてきたら、歩幅(ストライド)が大きくなりスピードもついてきます。大きくストライドすることでバランス感覚が身につきます。ストライダーはこの「ストライド」という言葉からネーミングされました。



CLEAR!

月 日

4. 両足離してバランスキープ

上級者になると地面から両足を離し、バランスをキープする事ができます。ここまで来ればバランス感覚は完璧。自転車に挑戦してみるのもおすすめです!



CLEAR!

月 日

5. いろんな乗り方・遊びにトライ!

乗れるようになって満足していたらもったいない! その先も色々な遊び方ができるのがストライダーの醍醐味。立ち乗りしたり、片足を上げたり、ジャンプしたり……様々な技にチャレンジしてみましょう。



CLEAR!

月 日

\\ストライダーに乗った後は//

STEP5 日常メンテナンス & 保管場所

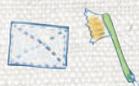
いつも快適に、より長く遊んでいただくため、
ストライダーを定期的にメンテナンスし、より安全性の高い状態を保ちましょう！

遊んだあとはキレイにしましょう



ストライダーでたくさん遊んだ後は、タイヤやホイール、フレームについた泥汚れをきれいに落としてください。水に濡れた場合は、乾いた布で水分を拭き取ってください。濡れたままにしておくとサビの原因になる恐れがあります。

・必要な物：雑巾、ブラシ



室内で保管しましょう



雨に濡れない場所で保管してください。また、長期間保管する場合は、汚れをしっかりと落としてから保管してください。

memo

お子さまと一緒に、定期的に点検・メンテナンスをおこなうことで、「モノを大切に使う心」が育まれます。

定期的に点検しましょう



ナットの点検

各部のナットは長時間使用していると徐々に緩んできます。走行中にタイヤがはずれてしまうと、大きな事故につながる恐れがございますので、緩んでいないか定期的に確認してください。

- ・必要な物：
14mmスパナ



ナットの点検



ホイールとタイヤの点検

ホイール部分にクラック(ひび割れ)が発生していないか、タイヤが擦り減り過ぎていないかを確認してください。走行に影響する場合は交換してください。

- ・必要な物：
14mmスパナ



ハンドルやシートの点検

ハンドルやシートが緩んだ状態で走行するのは大変危険です。定期的に、ハンドルやシートのクランプに緩みがないかチェックしてください。左右に動かしたときに緩みを感じた場合は、付属の六角レンチでしっかりと締め込んで固定してください。

- ・必要な物：5mm六角レンチ（付属品）



\\ストライダーで広がる

カラーパーツで キミだけの一台をつくらう



カスタムで
個性も育む

※一部、社外品のパーツを使用してカスタムしています。

ストライダーは、自分好みにカスタムできるカラーパーツが豊富です。
カラーシート、カラーホイール、カラーグリップを組み合わせ
世界にひとつの、自分だけの1台をつくってみよう！



ストライダー純正
カラーグリップ



ストライダー純正
カラーホイール

雪の上でも遊べる！ スノーストライダー

小さなお子さまでも、簡単に気軽にウィンタースポーツを楽しめるよう開発された「スノーストライダー」。新たなキッズウィンタースポーツとして注目を集めています。



オフィシャルイベントで 子どもの世界はもっと広がる

ストライダー初心者からベテランまで、誰でも楽しめるイベントやレースをオールシーズン開催中！好奇心いっぱいの今だからこそ、パパやママ、お友だちと一緒に遊び、たくさんの方にチャレンジしてみましよう。

1
2 3



[RACE EVENT]

STRIDER CUP ストライダーカップ 元祖世界最年少レース

2010年に日本で開催されて以来、今では世界中で開かれている公式レース。全国のストライダーキッズが一同に集結する、お祭りイベントです。

[RACE EVENT]

STRIDER ENJOY CUP ストライダーエンジョイカップ 人生初のレースを体験！

レースデビューにぴったりな、「楽しむこと」がテーマの公式レース。お友だちと走る楽しさや、はじめてのドキドキワクワクを体験しよう。



[RACE EVENT]

STRIDER World Championship ストライダーワールドチャンピオンシップ 世界にとび出そう！

通称「ストライダーワールドカップ」。年に一度アメリカ等で開催される大会には世界各国のストライダーキッズが参戦し、国境を越えてみんなでレースを楽しみます。

[RACE EVENT]

SNOW STRIDER スノーストライダー 雪の上でのストライダーレース！

冬季限定で楽しめる「スノーストライダー」は、レースや体験会を各地で開催中。お子さまのウィンタースポーツデビューに最適です。



[FUN EVENT]

STRIDER ADVENTURE ZONE ストライダーアドベンチャーゾーン 手ぶらではじめてのストライダー！

1歳半～5歳のストライダー未経験者や初心者を対象とした、参加無料の体験イベント。主に週末、全国各地で開催しています。

[FUN EVENT]

STRIDER PUMP ストライダーパンプ パンプコースを攻略しよう！

日本初上陸！ストライダー専用で作られた全長37mのウェーブ連続型パンプコースにトライして上級テクニックをマスターしよう！



※全てのイベント情報は公式サイトで紹介しています。

どうしてストライダーは バランスが身につくの？



直感的に操作ができ、体重移動によって
バランスを取る乗り物だからです。



	 ストライダー	 三輪車
前に進む	足で地面を蹴って進む 幼児が歩けるようになるのと同じく、 本能的動作で進める	ペダルを漕いで進む
曲がる	自然な体重移動によって バランスを取りながら 曲がる	ハンドルをきって曲がる

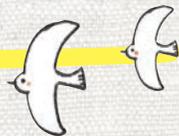
バランスが重要

バランスは不要

バランス感覚が
養えます

三輪車や補助付きは、子どもが本来持っているバランス感覚を奪ってしまいますが、ストライダーは子どものバランス感覚をダイレクトに養うことができます。また、最近の研究では、二輪車に乗ると脳が活性化されることが証明されています。幼いうちからストライダーに乗ることは、幼児期の脳の発達に有効と考えることができます。





ストライダーが 子どもの発達にイイ理由



2歳の「心とからだの発達」を促します

2歳の時期は、走る、両足で跳ねる、つま先で立つなど、足まわりの運動能力が飛躍的に発達。「からだを動かしたい」という本能的な欲求が出てきます。同時に、心も大きく成長する大切な時期。自我が芽生え始め、「自分でやりたい」と自発性が育ってきます。ストライダーの重さは3kgと、ランニングバイクの中でも最軽量クラス。筋力が発達しきらない2歳の子どもでもスムーズに進め、転んだときにも自分の力で立て直せるようにできています。

「成長ループ」を後押ししてくれる



乗り始めはトコトコと歩く程度ですが、徐々に蹴って前に進めるようになり、自然に体重移動を覚え、すぐに走れるようになります。まさに赤ちゃんが、たっち→あんよ→歩行を自然に身に付けていくように、本能にしたがって上達していくのです。その過程には「前に進めた」「走れた」などたくさん「できた!」が詰まっています。その成功体験が、「自分でやりたい→1人でできた→褒められる→もっと上手になりたい」という成長ループをアシストしてくれるのです。

「上手な転び方」を習得できる



近年、転んでも手が出ず、顔や頭にケガをする子が増えているといわれています。保護者は、子どもを「転ばないようにする」のではなく、「上手に転べるようにさせてあげる」ことが重要です。ストライダーは、転ぶことを前提につくられています。転倒時のダメージが最小になるよう、ハンドルはロックせず一回りし、車高も低く、低重心設計です。自転車と比較しても転んだときの衝撃が圧倒的に少なく、安心して転ぶ経験ができます。そのためにも、ヘルメットや肘膝あてなどプロテクターの装着が大切なのです。



よくある質問 Q&A

Q.ブレーキがなくても止まれるの？

A.幼児は危険を察知した時、反射的に足で止まろうとします。自分の足でしっかり止まれるよう、ストライダーは軽量設計を守り続けています。仮にブレーキが付いていても「レバーを握る＝止まる」という動作は直感的ではないので、幼児には難しい操作となります。

Q.自転車にすぐ乗れますか？

A.はい。ストライダーを自由に乗りこなせるお子さまはバランス感覚が身についているため、あまり自転車に乗る練習をしなくても乗ることができます。

Q.1歳半からでも本当に乗れるの？

A.はい。個人差はありますが1歳半のお子さまでも何日か遊ぶうちに乗ることができます。車体重量も3kgと軽量設計なので、小さなお子さまでもコントロールしやすく安心して乗りこなせます。

Q.他のランニングバイクと何が違うの？

A.アメリカの厳しい安全基準である「CPSC」規格と、EU加盟国の玩具安全基準である「CE」を取得しているストライダー。工場出荷時に製品試験を行い、国内でも独自の検査項目を設けてお子さまに安全なストライダーをお届けしております。これが、世界で200万台以上売れている理由のひとつです。

ストライダーはご購入日から2年間の無償サポートを行っています。



使用上の注意



ストライダーは自転車ではありません。ストライダーで公道を走行する行為は大変危険です。絶対におやめください。



安全性の高いヘルメットを選びましょう。また、小さい頃からヘルメットを被る習慣をつけましょう。



お子さまの走行中は、保護者の方は決してお子さまから目を離さないでください。

※ストライダーの類似品にご注意ください。

ストライダージャパン ☎ 0120-211-175 ☎ 03-5305-6895

ストライダーのイベントを
チェックしよう!

www.strider.jp 検索

